

# 子宮蓄膿症とは

中高齢の未避妊・未経産の子に多いと言われていますが、産歴がある子や、1歳未満で発症するケースもあります。

発情期を迎え、赤ちゃんを受け入れる状態になっている子宮に菌が入り込み、菌が繁殖してしまうことで子宮内に膿が溜まってしまいます。

膿が溜まりすぎて子宮破裂を起こして致死性の腹膜炎になったり、菌から発生するエンドトキシン(毒素)によりショックを起こし、命を落としてしまうこともあります。

## 《原因》

これと言って原因はありません。

どの品種の子がなりやすいとか、生活での要因もなく急に起こります。

生理のたびに食欲が落ちたり元気がなくなる子では「いつものかな」と思って様子を見ているうちに発見が遅れてしまうことが多いです。

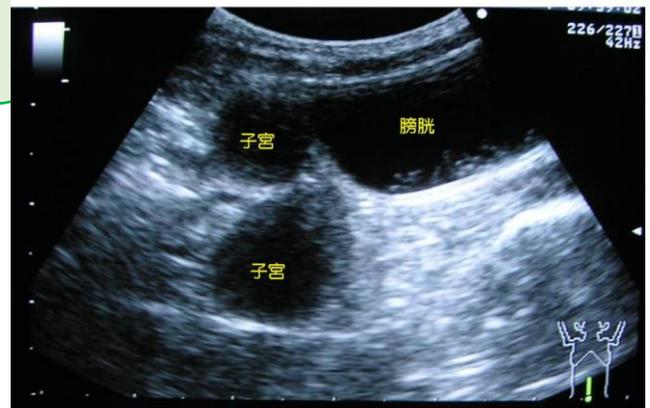
避妊手術(子宮卵巢全摘出術)を行っている子では100%起きない疾患です。

## 《症状》

- 嘔吐、下痢
- 水をたくさん飲む
- 食欲低下
- 元気が無い、ぐったり
- お腹が膨れている
- 生理が終わらない、または終わったのにすぐに始まった
- 血尿(子宮からの出血が混じっている)
- 発熱
- 敗血症性ショック(体温低下、血圧低下など)



エコーでは液体が黒く写ります。下腹には膀胱以外で液体が溜まる臓器が無いいため子宮に膿が溜まっているとこのように写ります。



## 《治療》

### ■ 外科手術

第一に選択されるのが、膿を持っている子宮と卵巣を取る手術です。

しかし診断した時点ですでに状態が悪化している子が多く、リスクは大きいです。

手術後も体に溜まった毒素を追い出すために点滴や抗菌剤などの治療が必要で、数日入院になることがほとんどです。

### ■ 内科療法

抗菌剤で細菌を抑える、膿を陰部から排出するように出口を開く治療を行うこともありますが根治にはならず、症状が変わらなかつたり、一時的に良くなっても再発する可能性が高いです。